

# 『社会学研究』第78号(2005年12月27日刊)

## 特集「批判的社会理論の今日的状況」

- ・「規範と価値 その区別はどの程度にコンテクスト依存的であるのか」(三島憲一)
- ・「『事実性と妥当性』における民主主義的法治国家論の論理と射程」(永井彰)
- ・「ハーバースの討議倫理学におけるカント=ヘーゲル問題」(日暮雅夫)
- ・「労働と承認 ホネット承認論の視角から」(水上英徳)
- ・「コミュニケーションのエピステモロジーへ」(宮本真也)

## 論説

- ・「『鏡と仮面』におけるパーソナルな行為者の名づけと用語法の「共有」 A・ストラウスの相互行為論の基礎として」(山口健一)
- ・「檀家組織からみた現代の寺檀関係」(高橋嘉代)
- ・「戦後日本における戦闘的平和主義者の思想と行動 ライフ・ヒストリー法による戦後民主化運動の政治思想史の試み」(松澤広樹)

## 書評

- ・永野由紀子著『現代農村における「家」と女性 庄内地方に見る歴史の連続と断絶』(評者 柿崎京一)
  - ・高橋徹著『意味の歴史社会学 ルーマンの近代ゼマンティック論』(評者 馬場靖雄)
  - ・土場学他編『社会を モデル で見る 数理社会学への招待』(評者 神林博史)
  - ・吉原直樹著『時間と空間で読む近代の物語 戦後社会の水脈をさぐる』(評者 伊藤毅)
-